

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について
〔2017 年 4-6 月期〕

公益社団法人全国産業廃棄物連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断 DI は▲14 となり、5 期ぶりに悪化した。

2017 年 4-6 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 21%で前回調査（2017 年 1-3 月期 20%）より 1 ポイント悪化、「好転」とした企業は 7%で前回調査（8%）より 1 ポイント悪化した。景況判断 DI は▲14 となり、前回調査（▲12）より 2 ポイント悪化した。

以下、その他業況感 DI の内訳

2017 年 1-3 月期に対して、

- ・売上高 DI は▲6 で、1 ポイント悪化
 - ・処理量 DI は▲3 で、3 ポイント改善
 - ・契約単価 DI は▲4 で、4 ポイント悪化
 - ・営業利益 DI は▲13 で、9 ポイント悪化
 - ・資金繰り DI は▲1 で、3 ポイント悪化
 - ・借入難易度 DI は 7 で、2 ポイント改善
 - ・設備投資 DI は 2 で、同水準
 - ・従業員数 DI は 5 で、4 ポイント改善
- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲15 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 売上高の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 5.2%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 9.9%増となった。
- 経常利益率については、平均値が 5.61%で前回調査（5.38%）より改善した。
- 経営上の問題点としては、「需要の停滞」20.2%（前回 21.1%）、「従業員の不足」17.8%（前回 13.6%）、「同業者相互の価格競争の激化」17.0%（前回 18.0%）と引き続き上位となった。「従業員の不足」が前回の 3 位から 2 位に上昇している。

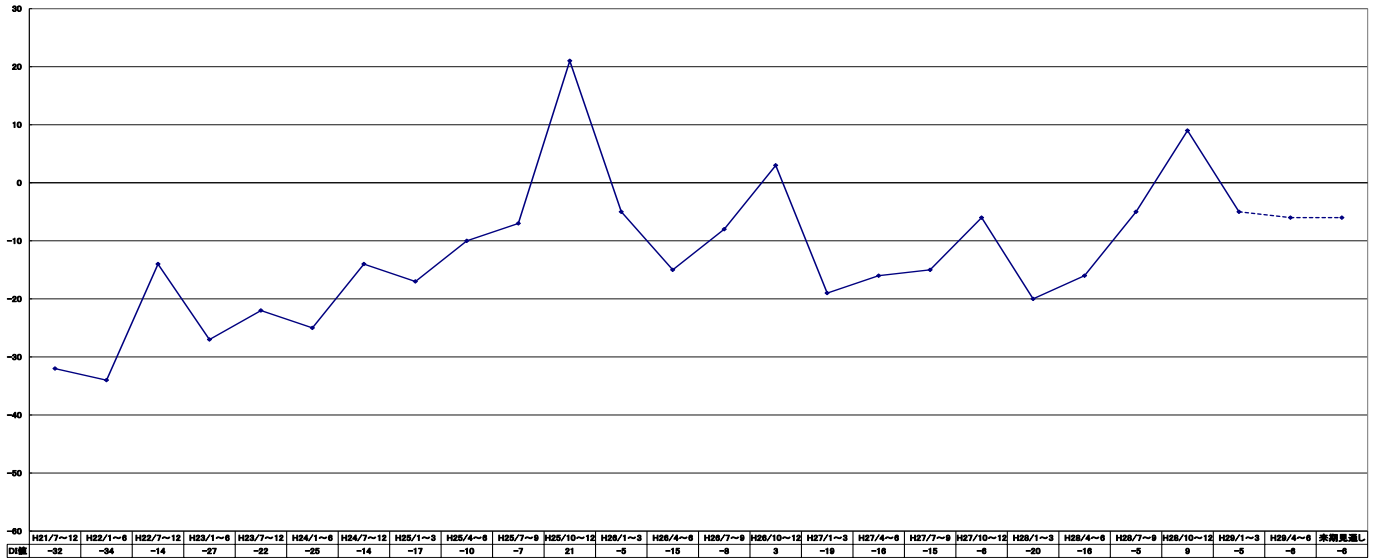
※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

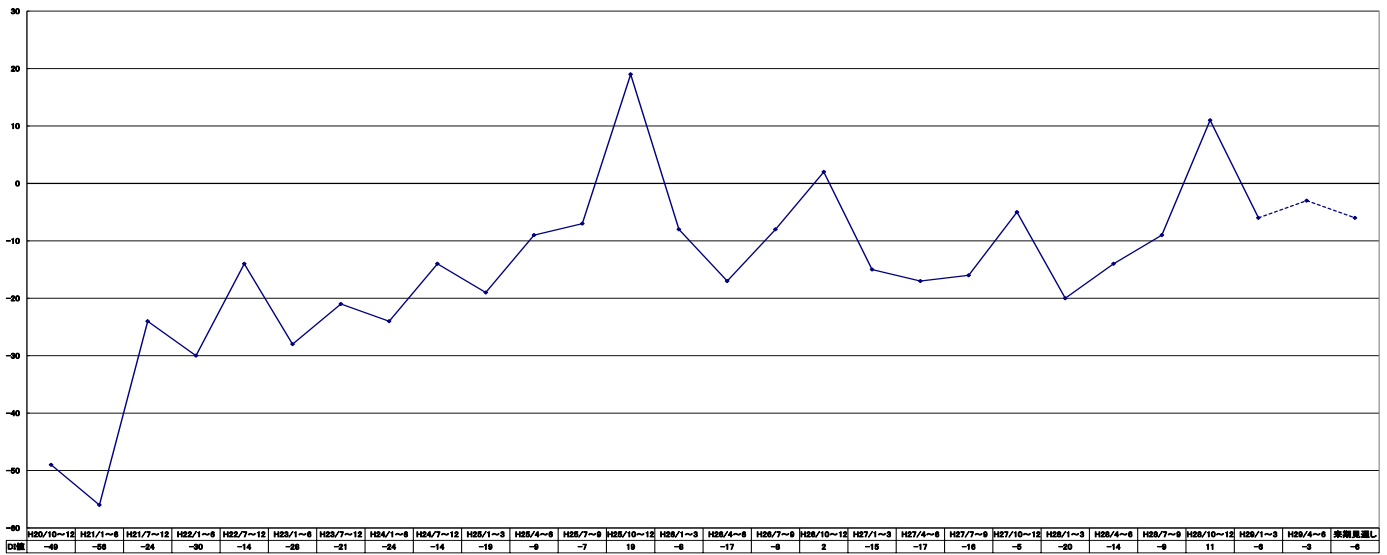
〔調査の要領〕

- 調査の対象：2008 年 10-12 月期で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員
- 調査の方法：郵送によるアンケート
- 調査期間：平成 29 年 7 月 10 日～8 月 25 日
- 回答企業数：354 社

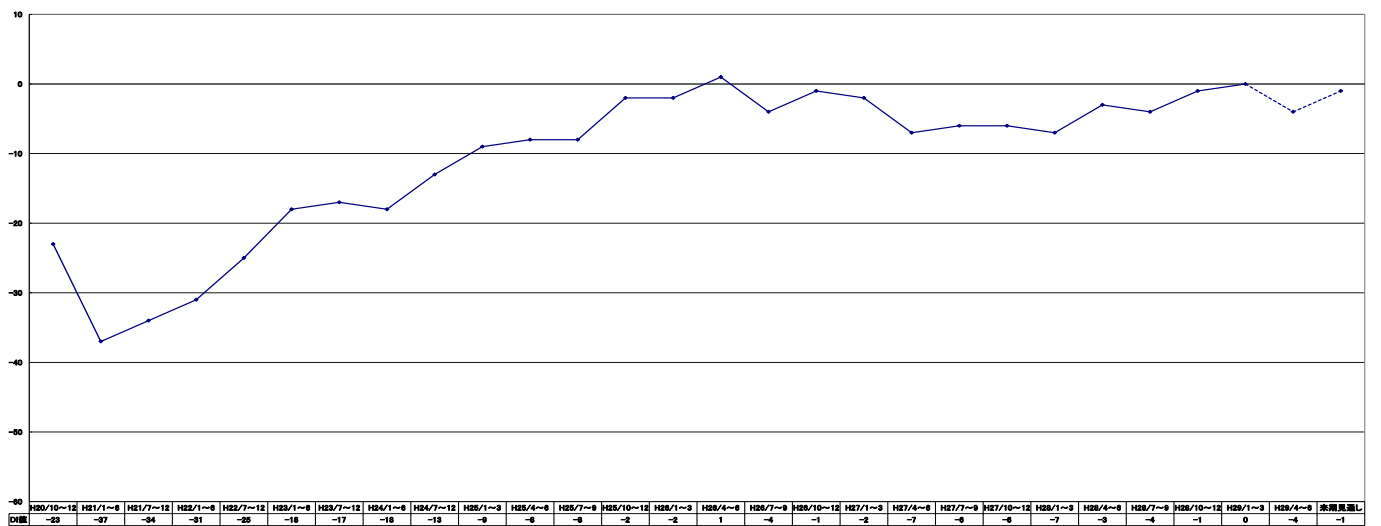
売上高DI



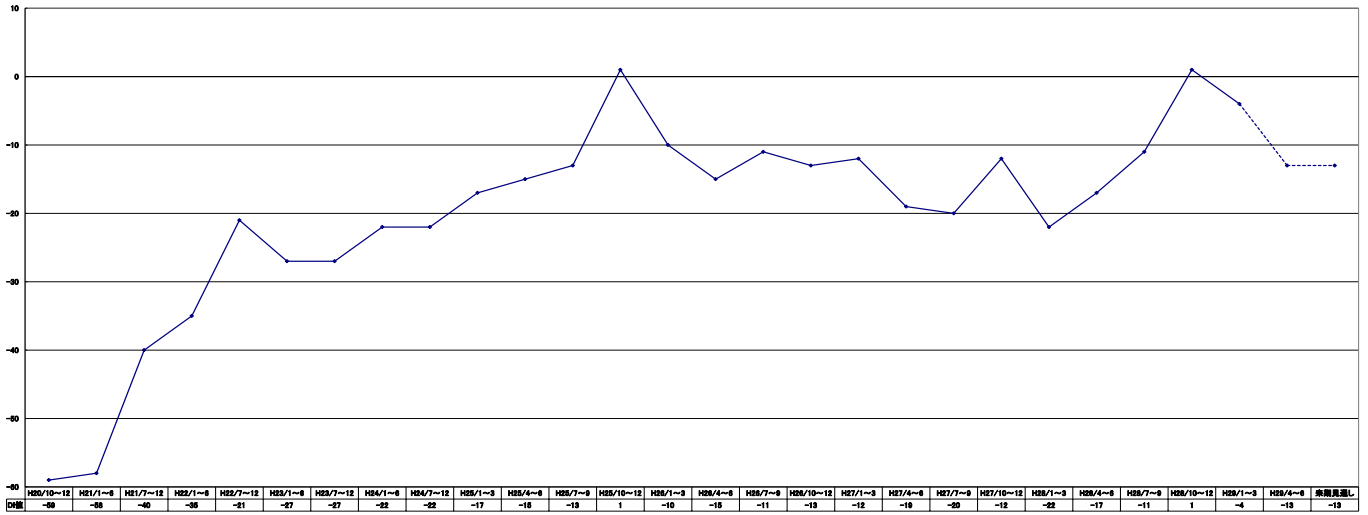
処理量DI



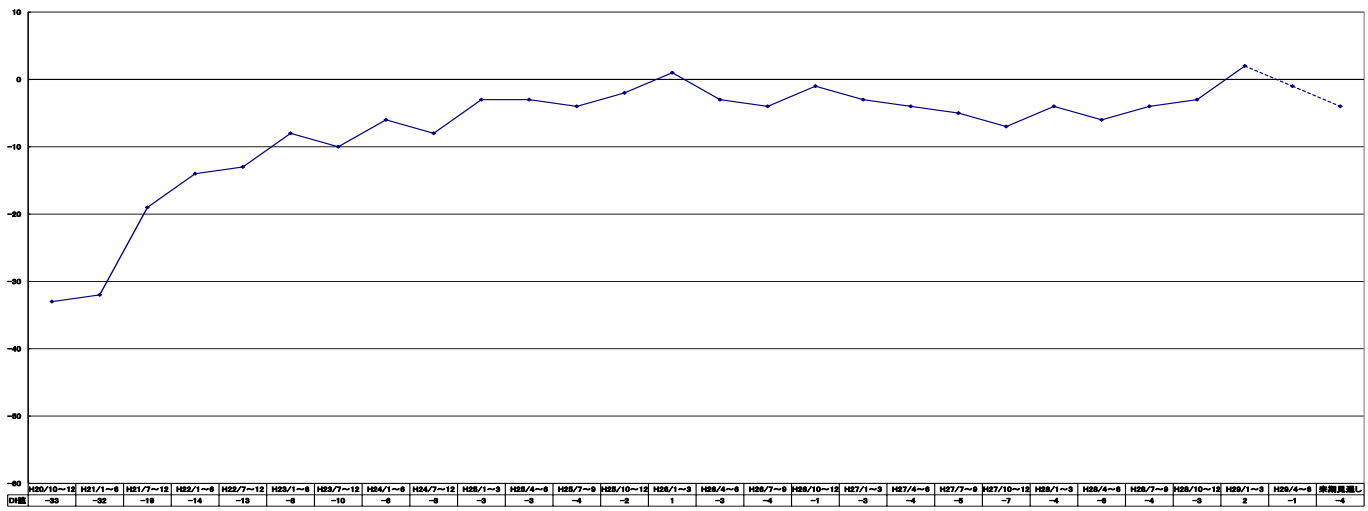
契約単価DI



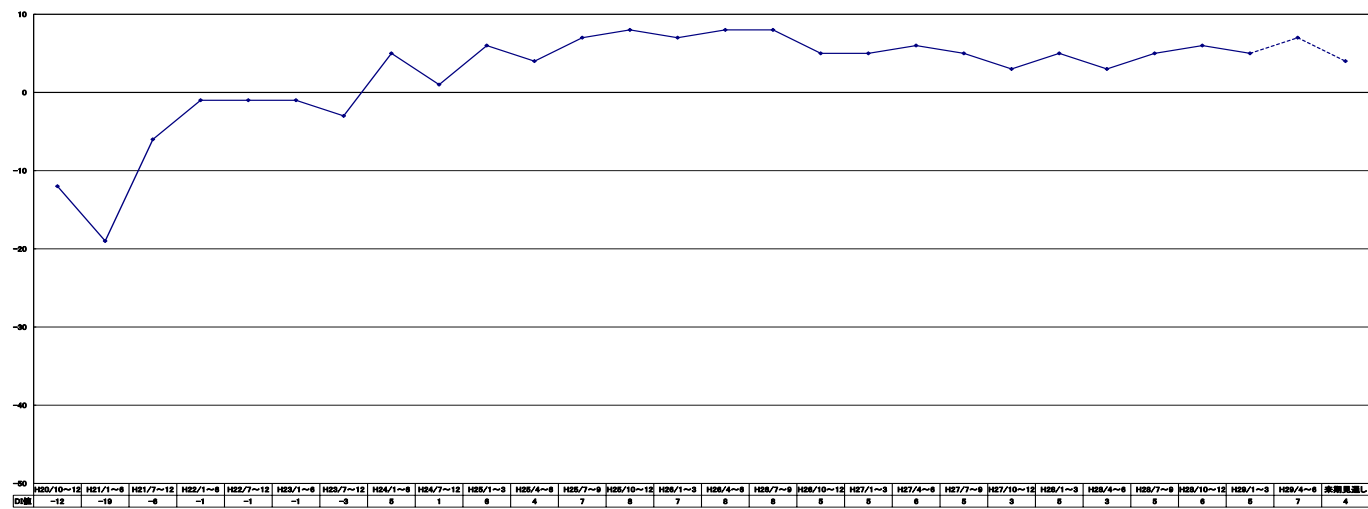
営業利益DI



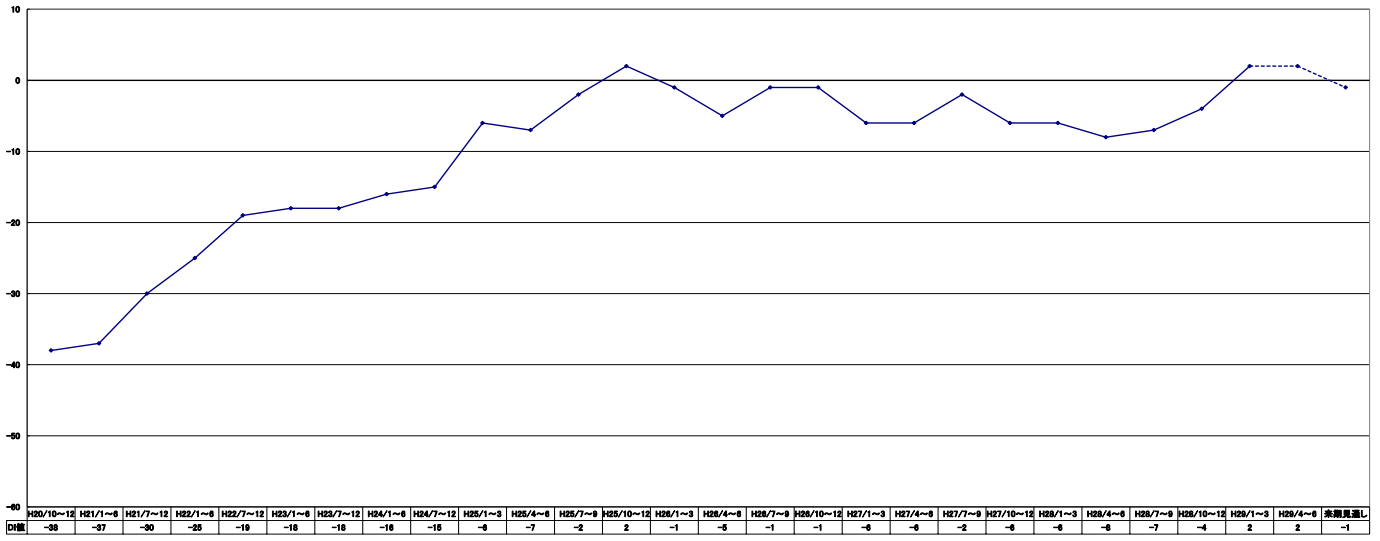
資金繰りDI



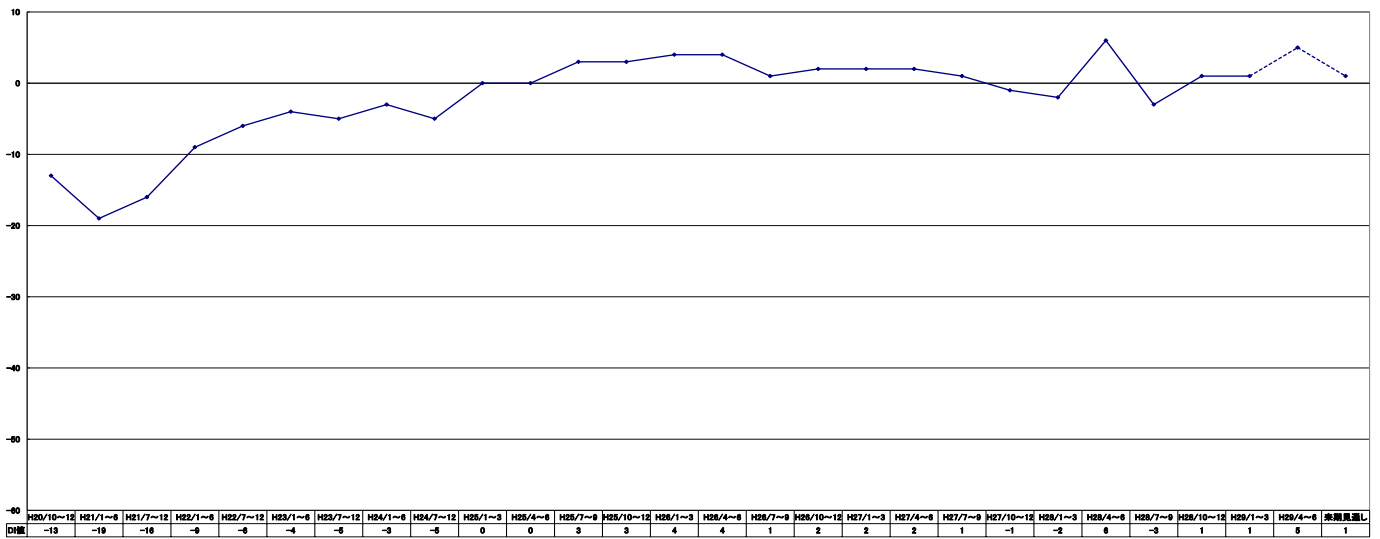
借入難易度DI



設備投資DI

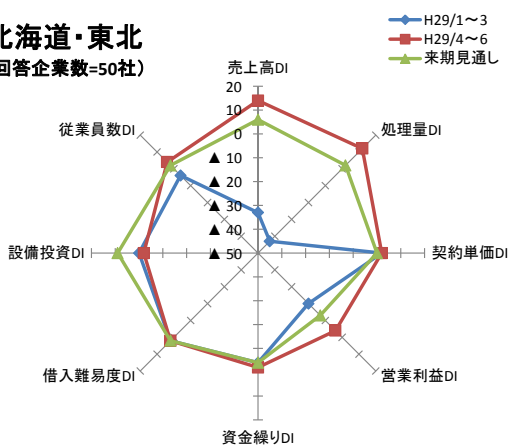


従業員数DI

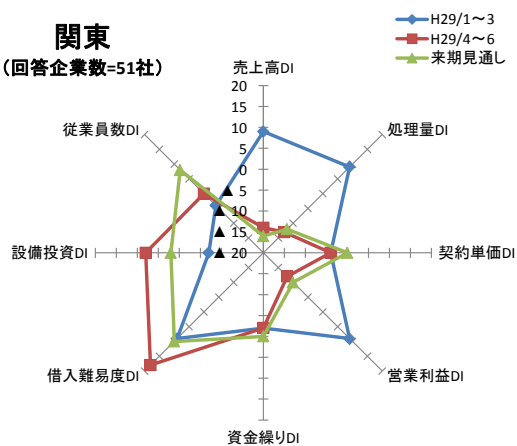


【地域別レーダーチャート】

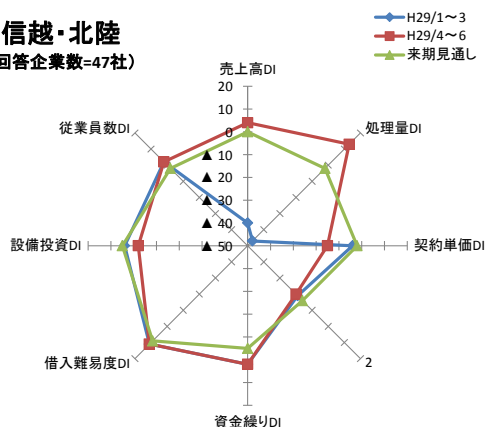
北海道・東北 (回答企業数=50社)



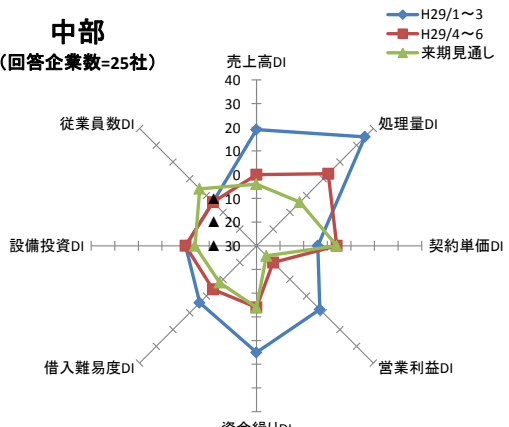
関東 (回答企業数=51社)



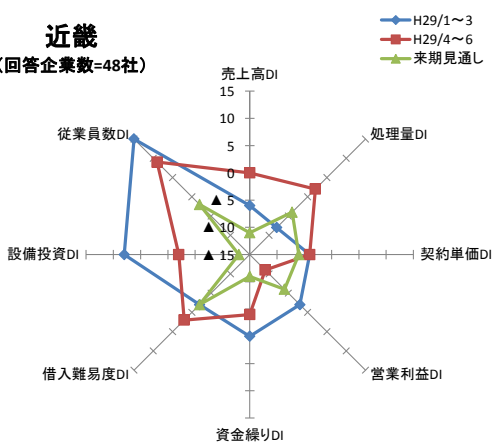
信越・北陸 (回答企業数=47社)



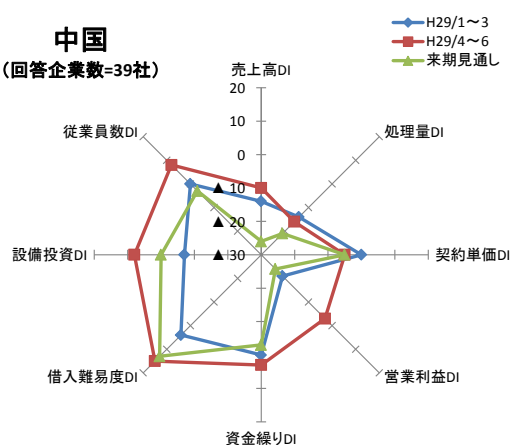
中部 (回答企業数=25社)



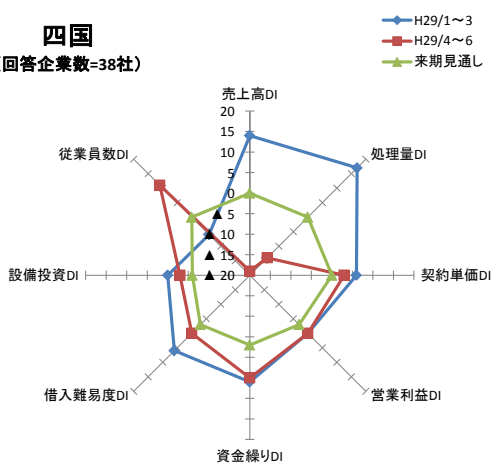
近畿 (回答企業数=48社)



中国 (回答企業数=39社)



四国 (回答企業数=38社)



九州・沖縄 (回答企業数=56社)

